

昭和二十年八月十日 土曜

陸軍

一昨夜二十三時ヨリ開カレタル御前會議ハ本朝三時過終了引キ續キ閣議アリ

二九時十分ヨリ地下防空壕ニ於テ陸軍省高級部員以上ノ集合ヲ命セラレ大臣ヨリ昨日ノ御前會議ノ模様ニ付左記要旨ノ説明アリ

左記

昨夜十一時ヨリ本朝三時ニ亘リ御前會議開催セラレ皇室ノ保全ヲ條件トシテ「ホツタ」宣言内容ノ大部ヲ受諾スルコトニ御聖斷セラレタリ  
然レ共之カ實効ヲ見ル爲ニハ皇室保全ノ確證アルコトヲ前提トスルモノナリ予ノ微力遂ニカカル歸結ニ至ラシメタルハ諸官ニ對シ申譯ナク深く責任ヲ感スルモ御前會議ニ於テ予カ主張シタルコトニ就テハ予ヲ信賴シ

0925

7-4

吳レルモノト信スユノトハ唯大御心ノユマニ進ム外ナシ此ノ  
際左記ニ注意セヨ

一 總テヲ捨テテ嚴肅ナル軍記ノ下團結シ越軌ノ  
行動ヲ嚴ニ戒ム國家ノ危局ニ際シ無統制ナル行  
動ハ國ヲ戒ル因ナリ

二 國民ノ動向ヲ十分觀察シ之ヲ把握シ大御心ニ從フ  
如ク指導スルコト肝要ナリ

三 難局ニ立タタル大和民族ノ方向ヲ誤ラサシムルコト

三 軍ノ自肅ハ必要

海外軍隊ノ處理ニ就テハ最痛心事ナリ

四 今後ノ外交交渉ノ經過ヲモ考ヘ軍ハ和戰兩用  
ノ態勢ヲ以テ臨ム要アリ

三 大臣説明ニ續キ吉積軍務局長ヨリ細部ノ説明アリ

四此ノ夜大臣官邸ニ大臣ヲ訪ヒ九日ニ於ケル狀況ヲ聽取セ  
ル所左ノ如シ

ハ午前ノ最高戦争指導會議ニ於テハ外務大臣及米  
内海相ヨリ和平論アリ和平交渉ニ入ル爲敵ト何  
等カノ手掛リヲ得ルト絶對必要ニテ之カ爲ニハ最  
小限ノ要求タル皇室ノ保全ノ一條項ヲコソツダシ宣言  
内容ニ含ムルモノトノ了解ノ下ニ受諾シ度トノ論  
ニ對シ大臣ハ戦争ノ繼續ヲ主張シ交渉ノ餘地ア  
ラハ六百記載ノ四ヶ條ヲ國體護持ノ最小限條  
件トシテ附スルノ要アル旨力説シ梅津總長豊  
田軍令部總長之ニ同意セル由ナリ

又此ノ會議ノ間軍令部次長大西中將來リ大臣ヲ呼ビ名シ  
米内ハ和平ナル故心許ナシ陸軍大臣ノ奮闘ヲ期待ス  
ル旨依頼セルニ對シ大臣ハ承諾シ且海軍部内ノ立場

モアルヘク本件ハ開カサルコトトシ度旨答ヘタリ  
又會議ハ意見對立シ議決ニ至ラス一四ニワヨリ閣議ニ入  
ル閣議ニ於テハ鈴木總理ヨリ最高戦争指導會  
議ノ模様ヲ御傳ヘスル旨宣シ東郷外務大臣ニ發  
言セシム東郷ハ和平交渉ノ手掛リヲ得ル爲ニモ  
一ヶ條ノ條件附ニテ受諾ノ要アル旨述ヘタリ之ニ對  
シ大臣ハ夫レハ外相ノ意見ニテ最高戦争指導會  
議ノ内容トハ異ル旨詰ル外相ハ之ヲ是認シ今ノハ  
自己ノ見解ナル旨述フ次テ米内海相ハ戰局ノ不  
利ヲ述ヘ(此ノ時敗北ト言ヒタルニ對シ大臣ハ敗北ハナ  
シアラスト詰メ身リ不利ト訂正セシム)軍需大臣農  
商大臣運輸大臣等ニ對シ逐次戦争繼續ノ可  
能性アリヤト實シ各相交々困難ナル事情ヲ答フ茲  
ニ於テ大臣ハカカルコトハ既ニ十分承知ノ事ニテ本日今更

繰リ返スヘキカ今日ノ決心ナラスヤト斷ス

一 時間休憩

4-18 頃ヨリ閣議再會。今度ハ端的ニ「ホツダ」受諾ヲ一ケ條件テリヤ四ケ條附ケルヤニ付議セラル。和平交渉ノ手掛リヲ得ルナラ四ケ條ヲ附ケテハ駄目ナラスト言フ意見多シ。安井國務相ハ陸相ヲ支持セリ。松岡法相ハ國體護持ヲ條件トスル以上軍備ノ保有、駐兵權ノ拒否ハ當然ノ條件ナルヘシト正論ヲ唱フ。岡田厚相モ右ト同ニ但シ現實ノ狀況ハ和平ノ要アルヘシト述ヘタリ。ニニ一〇 終了

5. 閣議ハ意見對立シ議決ニ至ラスニニ五ヨリ御前會議開催ナル此ノ間鈴木總理ハ參内閣議經過ヲ上奏セリ

6 御前會議

總理 阿南陸相 梅津總長

外二

陸軍務局長

迫水書記官長

⑤

平沼樞相 米内海相 東鄉外相

豊田軍令部總長

會議室ニ入ルヤ机上ニ議案トシテ外相案印刷配布

ニアリ即天皇ノ團法上ノ地位ヲ確保スルヲ含ムトノ諒

解ノ下ニ何ボツダシ宣言案ヲ受諾スルノ案アリ大臣

ハ之ヲ見テ總長ニ對シ條件問題ヲ議スルヲ止メ

戦争遂行一點張リテ論議スルノ要アル旨耳打

シ總長同意ス

陛下臨御ノ上會議開始總理ヨリ開催ヲ宣シ東郷

議案ヲ説明次テ米内海相原案ニ同意ノ旨發言

次テ陸軍大臣ハ左ノ如ク發言ス

東京・丸山稿

0930

先ツ言葉ニ全然不同意ヲ表明シタル後

1. 天皇ノ國法上ノ地位確保ノ為ニハ自主的保障

ナクシテハ絶對ニ不可。臣子ノ情トシテ我カ皇室ヲ

敵手ニ獲シテ而モ國體ヲ護持シ得ルトハ考フ

ルコト能ハス

口今次ノ行キ方ハ伊太利屈服ノ時ト同様ナリ敵

ノ謀略ニ乘ル能ハス

ハ、カイロ會談ノ承認ハ滿洲州外他ノ大東亞諸國

ニモ申譯ナシ假令戰爭ニ敗ルトモ最後迄戰フ

コトニ依リ日本ノ道義ト正義ト勇氣ハ永久ニ残

ルヘシ之レ國家トシテ悠久ノ大義ニ生キルコトニシテ精

神ニ於テハ天壤無窮ト言ヒ得ヘシ

ニ戰爭繼續ニ違ハキモ萬一文涉ノ餘地アラハ國體

護持ノ自由的保障タル軍備ノ維持敵艦兵艦

3-7

0931

ノ拒否ヲ絶對必要トシ戰爭犯罪者ノ處分ハ國  
 内問題トシテ扱フヘキ旨主張スル要アリ  
 未最後ニ重ネテ「ソ」聯ハ不信ノ國ナリ米ハ非人道ノ  
 國ナリカカル國ニ對シ保障ナキ皇室ヲ敵ニ奉スル  
 コトハ絶對又對ナリ  
 へ尙作戰上ノ判斷ニ就テハ兩總長ニ讓ル  
 次テ梅津總長ヨリ陸相ニ全ク同意ノ旨且作戰上  
 ノ所見開陳アリ次テ總理ハ豊田總長ヲ措イテ平沼樞  
 相ノ發言ヲ促セルヲ以テ大臣ハ紙片ニ「豊田ハ？」ト記  
 シテ渡シタリ平沼ハ二時間ニ亘リ突如參列セシ爲  
 一般狀況ニ通曉セサルノ故ヲ以テ各參列者ニ質問  
 ノ上「原案ニ同意ナルモ陸相ノ四ヶ條モ至極尤ナル故  
 十分考慮サレ度旨贊否明瞭ナラサル發言ヲナセリ  
 尙其ノ間「天皇ノ國法上ノ地位」云々ニ付日本天皇

東京・丸山稿



ノ地位ハ國法上ノモノナラス憲法以前ヨリノモノナルコトヲ述ヘ「天皇大權ノ確保」ノ趣旨ニ訂正ヲ要求シ修正セラレタリ（大臣ハ「バドリオ」ノ「カモフラード」ニ非サト疑惑ノ念ヲ有タル）次テ豊田軍令部總長ヨリ阿南陸軍大臣ノ意見ニ全ク同感ノ旨述ヘ且海軍トシテモ尚一戰ノカアル旨奏セリ大臣ハ平沼ノ意見賛否何レナルヤ分明ナラサル點モアリ之ヲ追及スヘク「議長」ト發言ヲ求メタルモ總理ハ左耳惡ク聞エス發言ヲ開始セリ即遺憾下ラ議分レテ決セス此對三ナルヲ以テ此ノ上ハ陛下ノ御聖斷ヲ仰ク旨奏ス此ニ於テ陛下ハ原案ニ同意セラレ彼我戰力ノ懸隔ハ此ノ上戰爭ヲ繼續スルモ徒ラニ無辜ヲ苦シメ文化ヲ破壊シ國家ヲ滅亡ニ導クモノニシテ特ニ原子爆彈ノ出現ハコレヲ甚シクス依テ終戰トスル忠勇ナル陸海軍ノ武裝解除ハ忍ヒス又戰爭犯罪者ハ朕ノ忠臣ニシテ之レカ引渡

之モ忍ヒサレ所ナルモ明治大帝カ三國干渉ノ時忍ハレタル  
御心ヲ心トシテ將來ノ再興ヲ計ラントスルモノナル旨聖斷  
アリタリ

ク次テ閣議アリ大臣ハ其ノ席上敵ノ信用程度如何皇  
室保全ノ確證ナキ限り陸軍ハ戦争ヲ繼續スル旨述  
ハ更ニ總理ニ對シ天皇大權ヲハツキリ認ムルコトヲ確認  
シ得サル時ハ戦争ヲ繼續スルコトヲ首相ハ認ムルヤト訊  
シタルニ對シ總理ハ小聲ニテ認ムル旨答ヘタリ更ニ海相  
ニ對シ同様ノ質問ヲ發シ米内ハ戦争ヲ繼續スル旨答  
ヘタリ

五午後重臣會議アリ

六午後臨時閣議アリ發表方法ニ付檢討セラレシ模様  
ナリ

七夜半八九時頃ヨリ大臣ヲ訪問十一時頃迄第四項ノ如キ